

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター
所管課(室) 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	環境保全型農林水産業を確立するための技術開発	PCR法を用いた病害等の診断技術の開発	ウイルス病等の診断が難しい病害に対し、PCR診断法を用いて、迅速な診断とその対策を可能にする。	病原菌等に特異的なプライマーを設計し、PCR診断を行う。特に症状での判断が難しいウイルス病については、Multiplex-PCR診断を行うための条件を設定する。	18	20	A	研究は、計画どおり実施され、当初の目標であった診断技術を確立できた。また、病害虫診断業務に活用されている。	・迅速に診断できる技術が開発され、防除所で活用されているとのことなので、研究目的が十分達成されたものと認める。 ・研究が順調に終了し、その成果が技術移転され、診断業務等で活用されており、評価に値する。リスク回避の観点から診断基準をどのように設けているのかを、次の機会に伺いたい。
2	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	経営管理技術及び生産・流通システムの高度化	消費者ニーズに基づいた新規園芸作物の生産・販売戦略の構築	イチゴの県オリジナル品種について消費者のニーズと購買行動を明らかにし、望ましい生産・販売体制について検討する。	県オリジナル品種の消費者等のニーズを明らかにし、購買行動を分析する。さらに、県オリジナル品種の販売戦略を構築する。	18	20	B	オリジナル品種に対する消費者ニーズを明らかにするとともに成果の公表を行い、オリジナル品種の販売上の位置づけを明らかにした。	「福島県のオリジナル品種」について、県民に対してもっと積極的に周知する必要があると思う。スーパーなどで一般の商品と同列に並べられた場合、一目で「オリジナル品種」とわかるようなポップ、シール等はないでしょうか。また、学校給食に提供し献立表にコメントを載せたり、地元の菓子店と共同で商品を開発するという方法もあると思う。県民が一度でも口にする機会が必要ではないでしょうか。
3	消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	環境保全型農林水産業を確立するための技術開発	露地夏秋野菜における灌水同時施肥栽培法の確立	露地夏秋キュウリ栽培の灌水和肥をシステム制御することによって、適正な施肥量による持続性の高い栽培技術を確立する。	露地栽培における夏秋キュウリの灌水同時施肥システムの開発及び栽培実証を行う。	18	20	C	施肥量軽減の当初目的は達成したが、現行では経済性・競争性から現場での活用は難しい。	
4	持続性の高い生産方式の導入	環境保全型農林水産業を確立するための技術開発	県内に流通する多様な有機物の特性評価	たい肥等の成分特性の把握および重金属類の簡易分析法の開発により、有機性資源の有効利用促進に役立てる。	1多様な有機性資源の成分特性把握 2有機性資源のデータベース作成 3多様な有機性資源の簡易的品質評価法の確立	18	20	A	研究目的は達成しており、有機性資源の有効利用促進に役立つ成果が短期間に得られた。	
5	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	コンニャクの省力・低コスト生産技術の確立	コンニャク栽培において、規模拡大のための大型機械化体系および省力・低コスト技術を確立する。	乗用の植付機やトラクタに装着する収穫機を用いて、大型機械一貫作業体系の作業効率を検証する。また、その体系に適した畦幅等の栽培方法を確立する。	18	20	B	コンニャク栽培の機械化体系、省力・低コスト化につながる成果が得られ、所期の目的を達成できた。	
6	地域産業の振興	中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発	中山間地域の立地条件および圃場条件に対応した機械化省力技術の開発	中山間地域に対応した機械化・省力化が可能となる作業技術を開発する。また、特産物などの作物を対象とした農業機械等を開発し、特産物の振興を支援する。	1. 傾斜ほ場に対応した機械化省力化技術の開発 2. メーカーが対応しない地域特産物等のマイナー作物用の農業機械の開発	18	20	C	企業との共同により商品化のための継続研究が必要である。	

試験研究（事後）評価整理表

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
7	地域産業の振興	中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発	伝統作物の特性解析と出荷時期拡大を目指した栽培技術確立	本県特有の伝統作物の生育特性、食品としての内容成分（機能性成分等）を明らかにし、これら伝統作物を安定的に供給するため種子保存法、栽培方法を確立する。	1 伝統作物の生育特性を把握し栽培方法を確立し、長期安定供給に向けた作型開発を行う。 2 伝統作物の内容成分特性を把握する。 3 伝統作物の種子を収集し保存する。	18	20	B	伝統作物の生育特性、品質の特徴、伝統的な移植作業の効果を明らかにし、阿久津曲がりねぎ等の知名度の向上に寄与した。	
1	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	畜産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	肉用育成牛の効率的飼養管理技術の確立	早期母子分離した子牛を省力的に哺育育成できる自動哺乳機(哺乳ロボット)を利用した集団育成方法について検討し、効率的な繁殖育成技術の確立をはかる。	自動哺乳機(哺乳ロボット)を用いた子牛の適正哺乳回数、哺乳量及び哺育育成方法の違いによる生育性・経済性を検討し、効率的な哺育育成技術を確立するとともに、母性効果についても併せて検討する。	16	20	A	肉用牛生産農家における生産性向上及び作業の省力化に貢献でき、今後の繁殖牛増頭への誘導の一助となる。	・研究目的、研究計画は概ね達成されたと認められるが、研究成果の活用を考えた場合、導入効果が得られるとされる大規模農場が福島県内にどの程度有るのか、或いは大規模農場を育成するのかと言った県の方針との整合性が重要と考える。 ・人工乳摂取量と60日齢腹囲胸囲の相関が、統計的にどの程度であるかを検討すべきと感じられた。興味深い研究と感じられ、成果の公表という観点から、学会発表に加えて、査読のある雑誌への投稿についてもお考えいただきたい。
2	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	畜産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	高栄養自給飼料の調製・利用技術の確立	栄養価の高い良質な自給飼料を生産し、それらを混合することにより、その飼料価値と利用率を向上させる。 また、発酵飼料の品質保持技術を確立する。	良質な高栄養自給飼料生産のための調製・保存技術等を検討する。また、食品残さ、粕類等の未利用資源を活用した混合発酵調製技術の確立について検討する。	28	20	B	高栄養自給飼料の細断型ローラーを活用した高気密保存手法による調製・保存体系の有効性について、一定の成果が得られた。なお未利用資源を活用した高栄養自給飼料の調整技術の検討については、食品リサイクル促進事業にて継続予定。	
3	地域産業の振興	中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発	畜産型土地利用管理技術の確立	耕作放棄地(遊休桑園等)を対象として、晩秋用備蓄放牧地利用技術や飼料イネ、牧草、麦類の組合せ利用による、和牛繁殖経営での活用を視野にいれた簡易で軽労力、低コストな畜産型土地利用管理技術体系を確立する。	晩秋用備蓄放牧地利用技術や日本型放牧技術について検討し、耕作放棄地(遊休桑園等)の低コストで簡易な畜産の利用システムを構築する。	16	20	B	研究の主目的である遊休桑園等の耕作放棄地への低コスト・低労力簡易牧草導入技術を体系的に開発でき、現地実証においても本技術の有用性を示すことができた。	